

京都精華大学 広報誌

木野通信

KINO PRESS.
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

issue 71
2018 Nov.

News & Topics

創立50周年記念シンポジウム
グローバル化された世界における「表現」の未来

キャンパス風景
むかし・いま・これから



KYOTO SEIKA UNIV.
50th ANNIVERSARY



新たな船出を宣言した
創立50周年記念式典

新たな船出を宣言した 創立50周年記念式典

今年、創立50周年を迎えた京都精華大学。その記念式典と祝賀会が、本学を支えてくださっている多くの方々にご参加いただき2018年10月13日に開催されました。



第一部 式典

芸術と人文学の重要性を確認 将来ビジョンを力強く宣言

50年の歩みを振り返り
さらなる飛躍への決意を表明

記念式典の会場となった体育館は、真っさらな白い布で覆われ、新しい第一歩を踏み出す決意表明の場としてふさわしい装いとなりました。これは、初代学長である岡本清一が創設当初の学生たちに述べた言葉から着想を得たものです。

式典ではまず石田涼理事長が登壇し、参加者への謝辞に続き、本学の教育理念の原点である「自由自治」について語りました。「京都精華大学では、すべての構成員が人格的に平等に扱われる大学共同体をめざし、自由の精神を持った学生を50年間育成してきました。自らと世界を自由にする『自由自治』の精神は、人間同士の対立や分断が根強くある現代社会においてますます求められてきています」。さらに石田理事長は、「リベラルアーツ」「表現」「グローバル」を重点事項とした新たなビジョンを策定したことを表明しました。最後に「自由自治の精神を基盤に、世

界を表現によって変革する人間を育成し、人類史に貢献していきます」と、これからの未来に向けての決意を述べました。

続いてウスビ・サコ学長が参加者に「感謝の意」を伝えました。その後、本学のこれまでの教育について振り返った上で、本学の理念と使命、社会情勢を鑑みながら、新たなステージへの飛躍をめざした今後の方針について語りました。「ひとつは、ダイバーシティを推進宣言です。私たちはダイバーシティを『多様なバックグラウンドや属性を持つ人々が違いを受容し合い、対等に機会が開かれること』と定義し、推進していきます。大きな目標として、留学生比率を40%まで増やすことが挙げられます。中国、韓国や欧米からの留学生に加え、重点的にASEAN、中近東、アフリカ諸国の留学生を受け入れたいと考えています」。そのため教育内容の改善・発展、キャンパス環境の整備などを行うとともに、外国籍教職員の比率向上をめざして教職員の国際感覚の醸成に努める考えを明らかにしました。

の間で、さらに多くの活動とともに実施したい」と述べられました。

卒業生と在学生が語る
京都精華大学の歴史と未来

ゲストの挨拶のあとに、京都精華大



チェンマイ大学副学長ローム氏からメッセージを賜った。

学として、京都の芸術・文化の発展に寄与していきたい」と強く語りました。

ゲストからの温かなメッセージと
芸術と人文学に関する講演

ゲストの方々を代表してのメッセージでは、京都市長門川大作氏、国立民族学博物館館長吉田憲司氏、総合地球環境学研究所副所長ハイン・マレー氏、アフリカMETS関西2018フェスティバル実行委員長センダ・ルクムエナ氏から、これまでの本学との交流を振り返りながら、今後も手を携えて協力していきたいと、温かな言葉をいただきました。

引き続き、本学の海外協定校の一つであるタイ王国・チェンマイ大学の副学長ローム・チラヌクロム氏のスピーチが行われました。本学とチェンマイ大学は30年来にわたり、双方の学生が交換留学等で行き来する親密な交流を続けています。自身も言語学教授であり、日本の芸術や文化にも造詣が深いローム氏に、『デジタル化した世界における芸術と人文学の重要性』をテーマにお話いただきました。

ローム氏は、本格的なデジタル時代を迎えた今日、人文学は人が人間らしく存在するために欠かせない学問であると説きます。デジタル化は、「生活のあらゆる面においてスピードを加速させ、人間の本質を失わせるものです。

このような社会に生きる私たちに、人生の核となるものを取り戻させ、それを見失わずにいることの大切さを思い起こさせてくれる人文学は、とても重要な学問なのです」。

続けて、芸術は日常生活における身体的・精神的ストレスの軽減に役立つだけでなく、『STEM教育(科学、技術、工学、数学の4領域の教育)』の発展に寄与する重要な要素であると言えます。「芸術は、STEMを支える創造性と想像力を育む領域であることから、教育においてその価値が認められ、STEMに『芸術(ART)』を加えて『STEAM』と呼ばれるようになります。芸術は、これまで欠落していた部分を補い、私たちの人生に一層の調和をもたらす学問となったのです」。こうした背景を踏まえてローム氏は、大学は芸術の価値に対する学生の意識を高めると同時に、独創性を活かした創作活動に取り組めるような働きかけを行う必要があると説きます。

また、デジタル時代に対応した教育については、伝統的な技法を守りながらも、デジタルツールを活用するスキルが身につけられる授業をおこなうなど、学生が『伝統的な芸術と現代の芸術との協働についての探求』ができる環境を整えていくべきだと語られました。

これらの教育活動の中で、『芸術の分野で同じ方向性を共有して良きパートナーであり続けてきた京都精華大学と



挨拶で“自由自治”について語る石田涼理事長。



これまでの歴史を基盤とした新たなステージへの飛躍

京都精華大学は2018年春、創立50周年を迎えた2018～2020年度の3ヶ年の中期計画[2020SEIKA]と、2024年度を到達点とするビジョン[2024SEIKA]を定めました。ビジョンでは、京都精華大学の理念と使命、そして歴史的蓄積を踏まえて、教学面において(1)表現の大学、(2)リベラルアーツの大学、(3)グローバルな大学の3つが立体的に結合した大学像を構想しています。中期計画では、未来の可能性の開拓をめざし、次の50年を展望した大きな再編を計画に盛り込んでいます。2021年度から新たな教育体制を始動させると完成年次が2024年となるため、ビジョンを達成する目標年度を2024年においています。いま、京都精華大学は新たなステージへ飛躍しようとしています。

的に結合した大学像を構想しています。中期計画では、未来の可能性の開拓をめざし、次の50年を展望した大きな再編を計画に盛り込んでいます。2021年度から新たな教育体制を始動させると完成年次が2024年となるため、ビジョンを達成する目標年度を2024年においています。いま、京都精華大学は新たなステージへ飛躍しようとしています。

VISION 2024SEIKA

2024年度における完成形の実現に向けて、5つの軸に沿って大学づくりをすすめます。



ノルウェーからマンガを学ぶために本学マンガ学部で留学してきたノルリ・アランさん。

学の50年の歩みと未来を紹介する動画を上映。動画製作は、卒業生が中心となって設立した Yucca (ゆっか) によるものです。動画では、現代美術家やマンガ家、アートディレクターなど各分野で活躍する卒業生のインタビューを交え、本学における学びの魅力や未来像について紹介しました。

式典の最後には、ノルウェーからの留学生でマンガ学部在籍するノルリ・アランさんが登壇し、在学生を代表してスピーチを行いました。「京都精華大学に合格できたことは、私の人生で最大の出来事となりました。留学して学ぶことの大変さはあるけれど、諦めずに手塚治虫のような歴史に残るすばらしい漫画家になりたい」と夢を語りました。

こうして、それぞれの立場から50年に向けたお言葉をいただき、次の50年に向けた船出となる式典になりました。

第二部 祝賀会

緑あふれる『精華の森』で これまでとこれからを語り合う

心尽くしの料理と
パフォーマンスでもてなし

第二部は、会場を『友愛館』のアゴラホールに移して祝賀会を開催しました。「友好の緑」をテーマに、世界の植物と京都の伝統的な祝いの樹木である北山杉を融合させて装飾された会場は、幻想的な森の中にいるような雰囲気漂わせています。

祝賀会のスタートは、京都精華大学同窓会「木野会」の山田隆会長による



「wenton (ウェントン)」が、歌と連続写真によるインスタレーション作品を披露。

乾杯の挨拶から。本学が所在する木野は、「愛宕神社」があり、歴史のあるすばらしい土地」と語るとともに、「開学当時から始まった、著名人を迎えての『アセンブリアワー講演会』は、今年で500回を迎えます。私が在学当時には、岡本太郎氏などのお話に人として成長する機会を与えてもらいました。これからも続いていくことを期待します」と、本学の教育活動の一環について語られました。祝賀会では美味しい料理を味わいながら、あちこちで歓談の輪が広がります。「hysioom (ヒスロム)」が本学に自生する木と身体を用いたパフォーマンスを行うなど、卒業生アーティストたちによる公演もあり、京都精華大学らしい時間を楽しんでいたかったです。

最後は、「大学改革を推し進めるために、今後とも協力をお願いしたい」とのサコ学長の挨拶によって閉会。祝賀会のテーマである「友好の緑」にちなんで、本学を支えてくださる皆様との交流を深めながら、さらに飛躍していきたいと心に誓う一日となりました。



KINO PRESS / 03



同窓会「木野会」会長であり、第二期卒業生でもある山田隆会長による乾杯の挨拶。



京都精華大学創立50周年記念シンポジウム

グローバル化された世界における「表現」の未来

2018年10月20日、ナイジェリアの詩人ウォーレ・ショインカ氏を大学にお招きしました。基調講演の後はサコ学長との対談が行われ、これからの教育について意見が交わされました。

〈第一部 基調講演〉

TEMPLE AND TEMPLATE: EDUCATION INTO HUMAN RIGHTS.

好奇心、探究、創造性。
この3つが教育の本質である。

ショインカ氏は、1986年にアフリカ出身者としてはじめてのノーベル文学賞を受賞しました。イギリス・リーズ大学で英文学を研究し、母国であるナイジェリアの内戦時にはヒューマニズムの立場から連邦政府を批判し、同国の政治史において大きな役割を果たされています。

講演ではまず、世界人権宣言において教育が重要視されている点に言及されました。人が己を人間と認識し学んでいくことは、ホモ・サピエンス（賢い人間）である人類にとって時を越えて重要な概念であることや、人間だけが現状をつくりかえる能力をもつこと、またある現象を変容させる要因そのものにもなり得ることを示しました。

続いて、世界人権宣言第26条の教育を受ける権利に触れ、とくに3項の「親は、子に与える教育の種類を選択する優先的権利を有する」という部分に言及。ナチスや日本における人種優越主義、アフリカのアパルトヘイト、さらにISの一員として残虐なシーンを世界に示したジハーディ・ジョンを取り上げ、歴史に学ぶことや、親が子どもに授ける教育の重要性に気づくべきだと指摘。また、母国ナイジェリア、マリ、ソマリアなどの例を挙げ、アフリカ大陸の多くの地域で教育に危険が

及んでいる現状を警告しました。

話題は未来を育む教育とは何かへと移ります。ショインカ氏は「人間があるべきところに見舞われたときに、知的な態度で対処できるかどうかで教育の質が問われる」と述べ、教育の質を担保する重要な要素が好奇心と探究心であると示しました。

「われわれは好奇心によって、自分が思っている範囲を超えた、より広い世界を見ることが出来る。人為的な境界線や思い込みによる区切りを越えさせてくれるものが教育である」「人間は、常に新しいものを求めて地球上を探索する生き物である。最終目的地に達するときに手にしているものこそが知識、知恵である」と説きます。さらに、教育とは単なる知識の蓄積ではなく、好奇心をベースにしたテンプレートが自分の中に培えるかどうか、新しい秩序や新しいものに出会ったときに、知的な反応ができる素地を自分の中につくれるかどうかが重要だと語りました。

学術の問題にも言及し、科学技術が進展する現代において、科学と人文学との間に境界線が引かれていることが問題となっている点を指摘。教育の手法を改善することでこの境界をなくし、学生がオープンに学術と向き合えるようにしなければならぬと説き、宇宙物理学者ステイブ・ホーキング博士が2012年、ロンドンパラリンピ

〈第二部 特別対談〉グローバル化された世界の未来、人間らしく生きること

足元を見て、
他者との共存を探る

はじめにサコ学長がショインカ氏の講演を総括し、「人間はホモ・サピエンスに達していないという世界観と知性の自由について学んだ。本学で取り組んでいる、若い人たちが自分たちのヴォイス、つまり自分の意見を持ち、自由を獲得した上で、どう人生を歩むべきかを導く教育について重要な示唆をいただいた」と話しました。

話題はショインカ氏が経験した権力からの弾圧に及びました。ショインカ氏は「当初、わたしは祖国から亡命しなければならぬ事実が受け入れられずにいた。そこで亡命を『政治的サバティカル（長期休暇）』と言い換えることにし、自分を納得させた」と振り返りました。空港では暗殺者から狙われたという当時の厳しい状況についてもユーモアを交え、柔軟な知性で苦難を乗り越えてきたエピソードの数々を語りました。

ショインカ氏と、自国を出てグローバルに活躍している、という共通点をもつサコ学長は「闊えば変化がくるかもしれないと信じられたショインカ氏の時代と異なり、現代は世界の一極化が進み、人間の価値を認めない風潮をもたらしている」と指摘。そのような時代の大学として「教育におけるグローバル化とは、互いの違いを理解し分



ツクの開会式で送ったメッセージを取り上げました。

「パラリンピックのゲームは、世界をわれわれがどう受け止めるかという考え方を変容させていくものである。われわれはみな違っている。標準の人間というものはない。人間としての精神は等しく共有している。ただ、重要なのは、われわれは創造する力を持っているということ。この創造性はいろいろな形で発露できる」。

ショインカ氏は「ホーキング氏の言葉の中には、どこかに文学が隠れており、私も詩のどこかに量子物理学を忍ばせているかもしれない」と述べ、学問における境界の曖昧さを指摘し、いずれの学問にも「世界を受け止めて変容させること、すなわち創造する能力」があると語りました。そして、「われわれ二人は次の点で意見が一致している」と、次のような印象的な言葉で講演を締めくくりました。

「人の探究心には限りがなく、タブーに挑戦することにおいても限界はない。好奇心、探究、物事を変容させること。この3つが、われわれの学びの神殿に存在する重要な神父である」。

かち合うこと。足元をきちんと見て、他者と共存することを重要視している」と大学教育の信念を語りました。

次に、グローバル化と経済格差の問題について、サコ学長が「貧困を語るのに、偏った仕組みでしかものを見ないことが問題だ。物質的に豊かであっても、精神的には貧困ということもありえるだろう。自分が学生たちに教える中では、フレーム化された定義そのものを崩していくことを意識してきた」と語ります。また、表現の大学として「学生に選択肢を増やすことが重要」だと述べ、「京都精華大学の学生には、すべての分野に自分が学ぶ可能性や権利があり、また学んだことを活かす場所があると思えるようにしていく」と今後の抱負を語りました。

最後に、会場からの質問にショインカ氏が答えました。「権力者へのもっとも効果的な反撃方法は」という問いには、「民主化されたメディアの中で主張を続けていくことが大切だ。言葉の選び方だけでなく、イメージをうまく使うことも含めて効果的なコミュニケーションを追求することだ」と述べました。

表現やリベラルアーツ、グローバルや多様性の追求によって若者たちがどのように自由を獲得できるのか。京都精華大学が追求していく問いの重要性を改めて確認することができた、意義深いシンポジウムとなりました。



時代の変化を見据え、学びの内容は進化してゆく
京都精華大学ですが、その根幹にあるのは「自由
自治」「人間尊重」の精神。教員、職員、学生が肩
を並べて笑いあい、キャンパスのあちこちで、学生
たちがのびのびと朝から晩まで時間を忘れるほど
に研究や制作に取り組む風景は、むかしも、いまも、
そしてこれからも変わらずにありつづけます。

Seika University

むかし・いま・これから
キャンパス風景



50周年を迎えた母校へ 卒業生メッセージ

京都精華大学創立50周年によせて、
たくさんの卒業生からお祝いのメッセージと
思い出のお便りをいただきました。
ここではその一部をご紹介します。

精華は、人生の中で
大切なものを教わった場所です。
また行きたいです。

作りつづけることは楽しいこともあり、
同時にとても苦しいこともあると思います。
へこたれずに続けている方を、

心から応援しています。
私もがんばるぞー！

夢に向かって
ガンバレ

人生を生きることを深くしてくれました。
自由に対する責任と誇り。

反骨と自由。



KYOTO SEIKA UNIV.
50th ANNIVERSARY

50周年おめでとうございます。
大学は今後、氷河期と言われて
いますが、自分が通った大学が
なくなるのはさみしいので、これ
からもずっとこの大学が発展され
る事を祈っています。

私は精華で
人生が変わりました。

主人に出会ったきっかけも精華
大学です。今、とても幸せです。

在学中、絵本クラスの入口にあった
一本の樹が好きだった。
その樹の名前は知らないけれど。
その心のどこかで、そよいでいる。

今も「作る」仕事をしていますが、
2期生の為か、
みんなで、セイカを創る
ということに関われたことが、
一番スバラシイ創作活動だったと思っています。

受験のときにキャンパスを見て、
その雰囲気がとても気に入ったことを覚えています。
あの時に、セイカとのつながりが始まったのでしょうか。
決して真面目な学生ではありませんでしたが、
セイカの卒業生であることを誇りに思います。
娘も一昨年、マンガ学部を卒業し、クリエイターとして活躍中です。

EVENT REPORT

概論・対談 芸術実践と 人権

—マイノリティ、公平性、合意について

①講座 | イントロダクション

講師：山田創平

対談：鷹野隆大／あかたちかこ／山田創平



レポート
したのは
この人

川端 真由さん

人文学部社会専攻3年生。普段
の授業では差別問題や哲学を
中心に学んでいる。今年の前期、
ニュージーランドでマオリ族の
民族衣装を調査。

が存在する。その自由は全ての表現に
与えられていると誤解しがちだが、表
現する際は自分の立場を理解した上で、
上位の権力者に向いているのか、弱者
に向いているのかを吟味することが重
要である。アートにも弱者を利用し社
会の端へと追いやるような作品が存在
する。それを避けるために、全ての表
現者は社会について学び、当事者と話
し合う必要がある。

——「表現の自由」は誰の、
何のための自由か？

私たちが生きる資本主義社会とはど
ういったものか。この問いから人文学
部教員の山田創平さんと児童自立支援
施設講師のあかたちかこさんの対談が
始まった。

資本主義とは経済成長を目的とした
社会の仕組みである。資本家は労働者
とその家族を生産システムに組み込み、
利益を生み出し事業を拡大する。歴史
上、資本主義社会の労働者は男性が多
い。結婚後、妻は家事や育児で夫を支
えるが、妻に給与は支払われない。や
がて子は大人になり、新しい労働者に

なる。とりわけ日本社会では戦後から
現在までこのような仕組みで社会は動
いてきた。こうして資本家に都合の良
い、男性・異性愛・健常者中心の社会
が作られ、女性や性的少数者、障害者
などは端へと追いやられた。

最近、国会議員の「LGBTは生産
性がない」という発言が話題になった。
これはまさに資本主義社会の中で生ま
れたヘイトスピーチである。ヘイトス
ピーチは表現の自由に含まれるだろう
か。表現の自由は権力者が弱者迫害の
表現をする自由ではなく、弱者が社会
や権力者に向けて表現する自由である。
社会的弱者の声に耳を傾け、民主主義
を守るために、表現の自由という理念

が近代以降、異性愛が唯一の性規範と
なった。背景には国家が子供を産むシ
ステムを求めたことや西欧化の流れが
あると考えられるが、性的指向は社
会状況や政治状況によって揺れ動くも
の」という歴史認識は、異性愛者と同
性愛者の垣根を取り除いていく一つの
鍵となるのではないかと話した。

2014年、美術館に展示された鷹
野さんの「おれと」シリーズの、性器
が写っている作品に対して、愛知県警
が撤去を指示した。鷹野さんは作品に
写っている人物の胸から下に薄い白い
布を掛け、展示を継続した。鷹野さん
は自身の作品が見たくないものを見せ
る暴力にならないように気を付けつつ、

あるものを無いかのようにふるまう暴
力について大切に考えていきたいと語
った。この講演を聞いて、社会が排除
しようとしているものにこそ、「表現
の自由」が存在する理由があるのでは
ないかと感じた。



Photo : Ai Nakagawa



鷹野 隆大氏

Student

06



平成30年度「学まちコラボ事業」に
本学有志学生による2団体が認定。

「学まちコラボ事業」とは、学生が主体となり、大学と地域が連携し、地域の課題解決に取り組む企画に支援金が交付される事業です。高齢化・過疎化の地域活性化を目的とした「京都精華大学 京北宇津宝さがし会」と、児童館やデイサービスセンターでアートのワークショップを実施している「しーかす」の2団体が認定されました。

2018 Event Information

創立50周年記念連続講演会
「〈1968〉の文化 〜そのとき、何が起きたのか〜」

※予約不要、入場無料、先着順

〔場所〕京都精華大学 清風館 C-103

●「アングラからサブ・カルへ〜革命の演劇か、演劇の革命か、それとも〜」 11月23日(金)18:00開演
〔講師〕高取英(劇作家／マンガ評論家)

●「土方翼と日本人―肉体の反乱(於・日本青年館1968.10)を中心に」 12月7日(金)18:00開演
〔講師〕三上賀代(本学教員／舞踏家)

●「世界を変えることはできるのか?」
12月22日(土) 13:30開演
〔講師〕対談
藤原ヒロシ(本学客員教員／ミュージシャン／デザイナー)
辻 恵(弁護士／元東大全共闘)

〔問い合わせ先〕
経営企画グループ 50周年事業担当 ☎075-702-5201

アセンブリーアワー講演会

※予約不要、入場無料、先着順

●「国体」と日本の近代 11月22日(木) 14:40〜16:10
〔場所〕京都精華大学 友愛館 アゴラ
〔講師〕白井聡(本学教員／政治学・社会思想研究者)

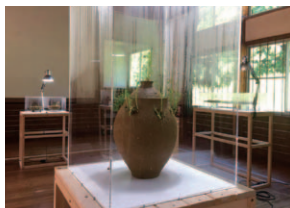
●人間の差別の問題 2019年1月11日(金)18:30〜20:00
〔場所〕京都精華大学 明窓館 M201
〔講師〕対談
山極壽一(京都大学総長／人類学・霊長類学者)
ウスビ・サコ(京都精華大学学長／建築学者)

〔問い合わせ先〕
京都精華大学 社会連携センター ☎075-702-5263

※以降のイベントなど、詳細はウェブサイトをご参照ください

Student

03



廃校になった小学校を拠点に
アートプロジェクトを実施。

廃校となった十日町市立中条小学校枯木又分校を拠点に、芸術学部教員や学生、卒業生有志により継続的にアートプロジェクトを実施しています。「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2018」では、芸術学部内田晴之先生、吉野央子先生、大学院生アルベルト・ヨナタン・セティアワンさん、劉 李杰さん、卒業生のユニット広瀬菜々&永谷一馬が参加しました。

Student

04



バレンシアガ100周年記念展覧会に
在学生の作品が展示。

世界的なファッションデザイナー、クリストバル・バレンシアガのアトリエ開設100周年を記念したスペインでの展覧会の出展作品として、ファッションコース4年生の大塚麻衣さんと川口福太さんの作品が選ばれました。展覧会は世界各地から学生作品を募集し、上位30体のみが展示されました。

Teacher

05



マンガ学部教員 篠原ユキオが
第47回日本漫画家協会賞を受賞。

篠原先生が6年間描き続けてきた作品集「HITOKOMART」(自費出版)が、日本漫画家協会賞のカートゥーン部門大賞に輝きました。受賞について、「この“漫画家を選ぶ漫画賞”は、唯一、最後の目標であり最も欲しかった賞。卒業生、在学生からも受賞者が続くことを楽しみにしています」と語りました。

News & Topics

News

01

11月30日より同窓生による
大規模イベント、
「精華學藝祭2018」を開催。

「精華學藝祭2018」は1期生から在学生までの同窓生による、絵画、立体、映像の作品展示、ライブパフォーマンス、ワークショップ、展示などを一同に集めて大学50周年を祝う大規模なイベントです。最終日にはウスビ・サコ学長による講演も予定しています。「観る・聴く・創る」と様々な形でお楽しみいただけますので、是非ご友人・ご家族をお誘いあわせのうえ会場にお越しください。

〔会 期〕2018年11月30日(金)〜12月2日(日)
〔時 間〕10:00〜17:00(最終日は16:00まで)
〔会 場〕国立京都国際会館 イベントホール
(地下鉄「国際会館駅」から徒歩5分)
〔入 場〕無料
〔問い合わせ先〕京都精華大学 経営企画グループ内 木野会事務局
☎075-702-5201

自由自治 50th
精華學藝祭
— 木野会 —



会場となるイベントホール

News

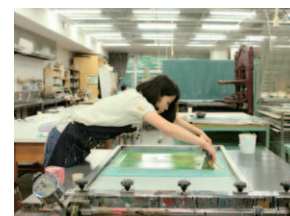
02

12月1日に本学卒業生たちが集う
「ホームcomingデー」を開催。

みなさんをご卒業以来、大学キャンパスを訪れたことはありますか?2006年にデザイン学部とマンガ学部が、2013年にはポピュラーカルチャー学部が開設され、新しい校舎の建設とともにキャンパスの風景は大きく変わりました。この機会にぜひ大学の現在に触れながら、年代・学部の垣根を越えて親睦を深めてください。

〔日 時〕12月1日(土) 12:00〜
●木野会会長挨拶
●京都精華大学学長挨拶
●キャンパスツアー

〔会 場〕京都精華大学 悠々館
〔参 加 費〕無料
〔問い合わせ先〕京都精華大学 経営企画グループ内 木野会事務局
☎075-702-5201



貸借対照表					(単位:円)
資産の部	科 目	本年度末	前年度末	増 減	
	固定資産	25,864,725,445	26,266,240,308	△ 401,514,863	
	有形固定資産	17,483,001,459	17,902,629,646	△ 419,628,187	
	土地	4,227,871,496	4,227,871,496	0	
	建物	11,040,422,722	11,401,706,628	△ 361,283,906	
	構築物	184,343,994	224,024,122	△ 39,680,128	
	教育研究用機器備品	871,904,184	906,659,294	△ 34,755,110	
	管理用機器備品	23,722,524	26,865,255	△ 3,142,731	
	図書	1,134,599,998	1,115,315,110	19,284,888	
	車両	136,541	187,741	△ 51,200	
	特定資産	8,044,117,521	7,883,540,000	160,577,521	
	第3号基本金引当特定資産	150,000,000	150,000,000	0	
	退職給与引当特定資産	1,357,457,000	1,357,457,000	0	
	減価償却引当特定資産	6,536,660,521	6,376,083,000	160,577,521	
	その他の固定資産	337,606,465	480,070,662	△ 142,464,197	
	電話加入権	3,633,424	3,633,424	0	
	ソフトウェア	26,114,549	44,615,491	△ 18,500,942	
	有価証券	100,000,000	200,000,000	△ 100,000,000	
	長期貸付金	203,093,172	227,056,427	△ 23,963,255	
	保証金	4,765,320	4,765,320	0	
	流動資産	3,519,625,411	3,285,594,293	234,031,118	
	現金預金	3,326,050,456	2,981,076,200	344,974,256	
	未収入金	108,986,183	212,920,068	△ 103,933,885	
	貯蔵品	9,877,273	13,199,027	△ 3,321,754	
	短期貸付金	29,869,820	29,816,474	53,346	
	立替金	8,166,038	3,219,028	4,947,010	
	前払金	25,327,630	34,347,798	△ 9,020,168	
	仮払金	11,348,011	11,015,698	332,313	
	資産の部合計	29,384,350,856	29,551,834,601	△ 167,483,745	

2018年度予算について

2018年度は経常支出予算の他に、対峰館・流溪館の外壁改修や通信設備・防災設備の大規模更新工事、創立50周年記念事業のための予算等を計上しています。また、今年4月に設置した「学修支援センター」や「創造戦略事務室」を運営するための予算等を新たに設けました。

事業活動収支予算書				(単位:円)
教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	金 額	
		学生生徒等納付金	4,420,367,000	
		手数料	37,900,000	
		寄付金	42,000,000	
		経常費等補助金	398,872,000	
		付随事業収入	334,551,000	
	事業活動支出の部	雑収入	100,477,000	
		教育活動収入計	5,334,167,000	
		人件費	2,993,739,000	
		教育研究経費	1,881,715,000	
教育活動外収支	事業活動収入の部	管理経費	528,406,000	
		徴収不能額等	7,500,000	
		教育活動支出計	5,411,360,000	
		教育活動収支差額	△ 77,193,000	
	事業活動支出の部	受取利息・配当金	80,317,000	
		教育活動外収入計	80,317,000	
		借入金等利息	25,102,000	
		教育活動外支出計	25,102,000	
	特別収支	教育活動外収支差額	55,215,000	
		経常収支差額	△ 21,978,000	
事業活動収支	事業活動収入の部	資産売却差額	12,510,000	
		その他の特別収入	8,250,000	
		特別収入計	20,760,000	
		資産処分差額	9,000,000	
	事業活動支出の部	特別支出計	9,000,000	
		特別収支差額	11,760,000	
		(予備費)	0	
		基本金組入前当年度収支差額	△ 10,218,000	
		基本金組入額合計	△ 233,922,000	
		当年度収支差額	△ 244,140,000	
翌年度繰越収支	前年度繰越収支差額	翌年度繰越収支差額	△ 4,473,171,547	
		翌年度繰越収支差額	△ 4,717,311,547	
		(参考)		
		事業活動収入計	5,435,244,000	
	事業活動支出計	事業活動支出計	5,445,462,000	

					(単位:円)
負債の部	科 目	本年度末	前年度末	増 減	
	固定負債	2,914,307,014	3,085,795,627	△ 171,488,613	
	長期借入金	1,521,250,000	1,706,258,000	△ 185,008,000	
	退職給与引当金	1,393,057,014	1,379,537,627	13,519,387	
	流動負債	1,759,235,625	1,788,418,699	△ 29,183,074	
	短期借入金	186,258,000	185,008,000	1,250,000	
	未払金	105,579,258	141,765,101	△ 36,185,843	
	前受金	1,320,998,528	1,260,979,293	60,019,235	
	預り金	146,399,839	200,666,305	△ 54,266,466	
	負債の部合計	4,673,542,639	4,874,214,326	△ 200,671,687	
純資産の部	基本金	29,183,979,764	29,250,142,707	△ 66,162,943	
	第1号基本金	28,609,979,764	28,676,142,707	△ 66,162,943	
	第3号基本金	150,000,000	150,000,000	0	
	第4号基本金	424,000,000	424,000,000	0	
	繰越収支差額	△ 4,473,171,547	△ 4,572,522,432	99,350,885	
	翌年度繰越収支差額	△ 4,473,171,547	△ 4,572,522,432	99,350,885	
	純資産の部合計	24,710,808,217	24,677,620,275	33,187,942	
	負債及び純資産の部合計	29,384,350,856	29,551,834,601	△ 167,483,745	

それらの結果、単年度の事業活動収支は基本金組入前の段階で1千万円の支出超過となります。基本金組入等を含めると2億4千万円の支出超過です。なお、支払資金(現金・預金)については、2017年度末から比べると1年間で2億5千万円の増加を見込んでいます。

資金収支予算書				(単位:円)
収入の部	科 目	金 額		
	学生生徒等納付金収入	4,420,367,000		
	手数料収入	37,900,000		
	寄付金収入	45,000,000		
	補助金収入	401,622,000		
	資産売却収入	25,334,000		
	付随事業・収益事業収入	334,551,000		
	受取利息・配当金収入	80,317,000		
	雑収入	100,477,000		
	前受金収入	1,170,365,000		
支出の部	その他の収入	628,180,000		
	資金収入調整勘定	△ 1,420,998,528		
	前年度繰越支払資金	3,326,050,456		
	収入の部合計	9,149,164,928		
	人件費支出	2,987,339,000		
	教育研究経費支出	1,295,789,000		
	管理経費支出	484,745,000		
	借入金等利息支出	25,102,000		
	借入金等返済支出	185,008,000		
	施設関係支出	44,082,000		
特別収支	設備関係支出	42,673,000		
	資産運用支出	500,000,000		
	その他の支出	122,579,258		
	(予備費)	0		
	資金支出調整勘定	△ 110,670,000		
	翌年度繰越支払資金	3,572,517,670		
	支出の部合計	9,149,164,928		

2017年度決算および、2018年度予算について

2017年度決算について 2017年4月1日～2018年3月31日

2017年度の事業活動収入は前年度から3億6千万円減少し、56億円でした。このうち学生納付金は80.3%を占めています。当年度は5号館や明窓館、体育館で大規模な空調設備の更新工事を行いました。これを含め、大学全体では施設整備に関わる事業に対し、8千万円の施設関係支出を行いました。また、設備備品については、黎明館コンピュータ教室のパソコン機器入替や対峰館実習室のAV装置更新、その他経常的な備品の充実等で1億1千万円の設備関係支出を行いました。なお、基本財産に関わる金額を示す基本金については、固定資産の除却高が取得高を上回ったため、全体としては7千万円を取崩すことになりました。

事業活動支出(人件費・経費等)は55億7千万円で、当年度の基本金組入前収支差額は3千万円の収入超過となりました。当年度は基本金の組入が生じなかったため、当年度収支差額も基本金組入前収支差額と同額で3千万円の収入超過です。なお、基本金取崩後の翌年度繰越収支差額は支出超過額が44億7千万円に減少しました。支払資金(現金・預金)は前年比3億4千万円増の33億3千万円となりました。但し、大学の資産全体としては固定資産の減少などにより1億7千万円の減少です。また、借入金の返済等により、負債は2億円が減少しました。これらによって、純資産は3千万円増加しました。以上の結果、純資産構成比率は0.6%上昇し、84.1%となりました。

事業活動収支計算書				(単位:円)
教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	金 額	
		学生生徒等納付金	4,494,928,300	
		手数料収入	39,995,444	
		寄付金	22,124,254	
		経常費等補助金	421,900,682	
		国庫補助金	419,522,949	
	事業活動支出の部	地方公共団体補助金	2,377,733	
		付随事業収入	363,357,280	
		雑収入	162,040,262	
		教育活動収入計	5,504,346,222	
教育活動外収支	事業活動収入の部	人件費	3,076,035,193	
		教育研究経費	1,882,362,036	
		管理経費	567,396,136	
		徴収不能額等	7,571,400	
	事業活動支出の部	教育活動支出計	5,533,364,765	
		教育活動収支差額	△ 29,018,543	
		受取利息・配当金	79,663,494	
		教育活動外収入計	79,663,494	
	特別収支	借入金等利息	28,416,118	
		教育活動外支出計	28,416,118	
基本金組入前当年度収支差額	事業活動収入の部	教育活動外収支差額	51,247,376	
		経常収支差額	22,228,833	
		資産売却差額	323,994	
		その他の特別収入	16,598,249	
	事業活動支出の部	特別収入計	16,922,243	
		資産処分差額	5,890,263	
		その他の特別支出	72,871	
		特別支出計	5,963,134	
		特別収支差額	10,959,109	
		基本金組入前当年度収支差額	33,187,942	
基本金組入額合計	前年度繰越収支差額	基本金組入額合計	0	
		当年度収支差額	33,187,942	
		前年度繰越収支差額	△ 4,572,522,432	
		基本金取崩額	66,162,943	
	翌年度繰越収支差額	翌年度繰越収支差額	△ 4,473,171,547	
		(参考)		
		事業活動収入計	5,600,931,959	
		事業活動支出計	5,567,744,017	

資金収支計算書				(単位:円)
収入の部	科 目	金 額		
	学生生徒等納付金収入	4,494,928,300		
	手数料収入	39,995,444		
	寄付金収入	27,106,754		
	補助金収入	425,001,682		
	国庫補助金収入	422,623,949		
	地方公共団体補助金収入	2,377,733		
	資産売却収入	100,941,163		
	付随事業・収益事業収入	363,357,280		
	受取利息・配当金収入	79,663,494		
支出の部	雑収入	162,040,262		
	借入金等収入	0		
	前受金収入	1,320,998,528		
	その他の収入	933,508,577		
	資金収入調整勘定	△ 1,369,965,476		
	前年度繰越支払資金	2,981,076,200		
	収入の部合計	9,558,652,208		
	人件費支出	3,062,515,806		
	教育研究経費支出	1,292,219,044		
	管理経費支出	519,771,348		
特別収支	借入金等利息支出	28,416,118		
	借入金等返済支出	183,758,000		
	施設関係支出	83,110,384		
	設備関係支出	111,272,067		
	資産運用支出	860,447,521		
	その他の支出	211,589,648		
	資金支出調整勘定	△ 120,498,184		
	翌年度繰越支払資金	3,326,050,456		
	支出の部合計	9,558,652,208		

～ご支援くださる皆様へ～ (ご寄付のお願い)

本学は今年度創立50周年を迎えました。さらなる教育・研究活動の充実、学生活動の支援のため、多くのみなさまの温かいご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

●寄付募集Webサイト

<http://www.kyoto-seika.ac.jp/donate/>

寄付用途はご意向に合った運用をさせていただきます。

●古本募金 WEBサイト

<http://kishapon.com/seika/>

読み終えられた本やDVDなどが京都精華大学への寄付となります。



●お問い合わせ(リーフレット請求先)

京都精華大学 経営企画グループ 寄付募集担当

E-mail: kikaku@kyoto-seika.ac.jp

TEL 075-702-5201

FAX 075-702-5391

『木野通信』送付先ご住所等の変更を希望される方は、メールまたはFAXで変更事項を以下の宛先へご連絡ください。

●お問い合わせ

京都精華大学 経営企画グループ 木野会事務局

E-mail: kinokai@kyoto-seika.ac.jp

FAX 075-702-5391



Photo 花戸麻衣(京都精華大学デザイン学部4年生)

『魂の行方』

素 材: ガラス瓶

サイズ: 200×200×400mm

「必然的な事だが偶然的な運命」

大東 真也

京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程在学中。ガラスの熱によって変形する性質と重力を利用して、ガラス瓶の形を変形させたさまざまなアート作品を制作している。2017年、芸術学部在籍時に「第71回滋賀県展・芸術文化祭賞(大賞)」を受賞。翌年に「第4回藝文京展・京都市長賞」を受賞。京都のKUNST ARZTや東京のメゾンダールギンザで個展を開催したほか、「アート町家ステイ2017」や「アトリエ三月年末公募展」など、さまざまな公募展、グループ展に積極的に参加している。

京都精華大学

芸術学部

[造形学科]
洋画専攻
日本画専攻
立体造形専攻
陶芸専攻
テキスタイル専攻
版画専攻
映像専攻

デザイン学部

[イラスト学科]
イラストコース
[ビジュアルデザイン学科]
グラフィックデザインコース
デジタルクリエイションコース
[プロダクトデザイン学科]
プロダクトコミュニケーションコース
ライフクリエイションコース
[建築学科]
建築コース

マンガ学部

[マンガ学科]
新世代マンガコース
カートゥーンコース
ストーリーマンガコース
キャラクターデザインコース
マンガプロデュースコース
ギャグマンガコース
[アニメーション学科]
アニメーションコース

ポピュラーカルチャー学部

[ポピュラーカルチャー学科]
音楽コース
ファッションコース

人文学部

[総合人文学科]
文学専攻
歴史専攻
社会専攻

大学院

芸術研究科
デザイン研究科
マンガ研究科
人文学研究科

木野通信

KINO PRESS.

木野通信 第71号

2018年11月8日 発行

京都精華大学 広報グループ

〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

TEL 075-702-5197 www.kyoto-seika.ac.jp

表紙写真: (左) ウスビ・サコ学長、
(中央) 50周年記念式典で学生スピーチをしたノルリ・アランさん、
(右) 石田 涼理専任